



# 五小だより

12月号

令和7年11月28日  
国分寺市立第五小学校  
042-322-0045  
校長 齋藤 晃

## 「ルールとマナー」と「教えることと考えさせること」

副校長 小野 光典

20年近く前になりますが、ルールとマナーについて、下記の事例を基に、お話を伺ったことを今でもずっと覚えています。

校庭で鬼ごっこをして遊んでいる子供たち。ある子が途中でトイレへ。それを見ていた鬼の子。入口で待ち伏せ、トイレから出てきた子をタッチ。タッチされた男の子は、「それはずるだよ。」それに対して鬼の子は、「そんなルール決めてないじゃん。」

このような状況に皆さんが出くわしたとしたら、どのように対応されますか？

子供たちの世界であれば実際に起こりそうな状況ですが、【トイレから出てきた友達を直ぐにタッチしてはならない。】のようなルールを作ったとしても、何だか気持ちの悪いものです。日常生活においても、ルールで縛り過ぎると、ファジーな部分がなくなり、窮屈になってしまいます。それでも、細かいルールがなくても生活が成り立っているのは、所謂マナーやエチケットというものを守っているのだと思います。上記のお話は、体育科の学習における、マナーを身に付けることの重要性を問うたものでした。ChatGPTによれば、『マナーとは、人間関係や社会生活を円滑にするための「礼儀作法」や「気配り」のことです。場面や文化によって異なり、相手への思いやりが根底にあります。』だそうです。このマナーは少々厄介で、ルールでもなくそこら中に掲示されている訳でもなく、人によって捉え方も多少変わるのに、違反すると叱られます。人の行動を見たり自分で考えたりして、私たち大人は成長の過程で身に付けてきたのではないのでしょうか。ルールは教えられるもの、マナーは自分で気付くもの、何となくそんな教育を受けてきたような印象をもっています。しかし、自分で考えるさせるだけでは、マナーは身に付きません。

同じようなことが学習指導場面でも見られます。教員は考えさせることを大事にするため、「なぜ～？」「どうして～？」など、「？」の問いから子供自身の気づきを促していきます。これは、思考力、判断力、表現力を育成するための大事な学習になります。しかし、何の納得解や最適解もないまま、子供たちがいつも「？」のまま終わってしまっただけでは元も子もありません。それでは思考させること自体が目的になってしまいうからです。次の学習指導要領（法で定める教育の理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるもの）では、生きて働く「確かな知識」が重視されるとのことです。詳しいことはまだ先のことでありますが、知識の捉え直しが必要なのだと思います。

考えさせることは大事です。それと同時に、教えて覚えさせることも躊躇してならない時があると思っています。思考しながら知識を獲得していく段階が必要であれば、知識を基に自分なりの活用の仕方を考えていく段階も、子供にとっては、大事な思考になります。きっと、私たち大人が、場面や状況、発達の段階を踏まえ、教えるべきか考えさせるべきかを見定めていくことも大切なことなのでしょうね。

さて、11月はふれあい月間でした。いじめアンケートを全校児童に実施しています。人の心や体を傷つけていけないことは、考えさせることではなく、教えることです。「ダメなものはダメ」時には、大人として毅然とした態度で、子供たちに教える必要があるのではないのでしょうか。アンケート状況については、後日報告させていただきます。

## 転出入児童の情報

来年度の学級数を決定するにあたり、児童数を正確に把握したいと思います。今年度中に、以下のような情報がありましたら、お早めに担任や副校長までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

**\*年度末までに転出予定の方**

**\*今後、転入予定の方**